

## サイド村のジョニー

1 リズデイルの若者たちが敵の村を襲いました

止めたほうがよかつたのに

ワインフィールドのミッチエルは死んでしまいました

息子のジョニーも捕まりました

ラ ラ デイドル さあ歌おう

2 マンガートン館へと老母ダウニーは大急ぎ

上着の裾を膝までまくつて

川沿いをいつしょうけんめい駆けました

滝のように涙が流れ落ちました

3 マンガートンが起き出して

「何の知らせだ ダウニー姉さん」

「マンガートンよ 悲しい知らせ

ミッチエルは殺されてジョニーは捕まつた」

4 「ダウニー姉さん 何も恐れることはない

わたしには二十四頭の雄牛がある

納屋も牛小屋も羊の檻も家畜でいっぱい

みなジョニーを救うため手放そう

5 「三人の若者にジョニーを救いにゆかせよう

極上の鋼で作った鎧を着せて

イングランドのものどもが剣の音を聞いたなら

おじけ きぞや重いと怖気づくはず

6 「息子のジョックとワットをゆかせよう

ホビー・ノーブル おまえも共に行つてくれ

青い鎧の若武者よ イングランドを追われてから

わしに忠誠を誓つた仲だ」

7 ホビーの出はイングランド

生まれ育ちはビューカースルの谷

でも ひどい悪事をはたらいて

永久追放の身となりました

8 マンガートンは三人に命じました

「道は険しい 馬の足に蹄鉄を打て

りっぱな家柄を悟られぬよう

道中は穀物売りに化けるのだ

「鎧兜も見られるな  
武者と気付かれてはならないぞ  
百姓の身なりで

馬には手綱と首輪だけ付けるのだ」

10 蹄鉄を打つた一行は険しい道を駆けました

ホビーは葦毛の馬に乗り  
ジョックは鹿毛色 ワットは白い馬に乗り  
タイン川へと駆けました

11 コラフオードで馬を降り

月明かりを頼りに  
ニューカースルの城壁を越えるため

丸太の両側に十五の足場をつけました

12 ニューカースルの町に着き

城壁の下で馬を降りると  
作った梯子は三メートルも壁より低く  
足場も短く 役立たず

13 ジョックが言うには

「他に手はない 門を破ろう」

でも 門まで来たときに

<sup>て</sup>手強い門番が両手を広げて通せんぼ

14 門番の首と胴をねじつて真つ二つ

手も足もピクリとも動かなくなりました

門番の命と鍵を奪つて

死体は城壁の中に投げ込みました

15 お城の牢屋にたどり着き

囚人ジョニーに言いました

「ジョニー 眠っているかい 起きているかい  
縛られて疲れ切っているのかい」

16 囚人ジョニーは悲しそうに言いました

「目は冴えるばかりで 眠れやしない  
おれの名前を知っている おまえは一体何者だ  
なぜおれの嘆きを聞きたがる」

17 ジョックが言うには

「兄弟よ 何も恐れることはない  
ジョックとワットとホビー・ノーブルの三人で  
おまえを救いにやつて来た」

18 「ああ 気休めは言うな

何を聞いてもぬか喜び

今宵 リズデイルの仲間さだめが助けに来ても

明日の朝には死ぬ運命

19 「百キロのスペイン鉄の足枷が

この身に付けられているのだから

鍵をがっかりかけられて

暗くて恐い牢屋に繋がれているのだから」

20 「恐れるな

弱気じや女も口説けない

おまえは中から おれたちは外から戸を破る

必ず救い出してやる」

21 三人は手前の大扉を

鍵も使わず訳なく破り

鎖のかかつた奥の大扉も

木つ端微塵に壊しました

22 囚人はジョックの背中に

高々と担ぎ上げられました

あつという間に 足枷もろとも運び出し

ジョックは得意満面でした

23 「おい ジョック」とホビー・ノーブル

「俺も担ごう」

「大丈夫」とジョック

「蠅より軽いくらいだぜ」

24 ジョニーを高々と馬に乗せ

城門へとまつしぐら

陽気にとばして一目散

急いで城門から逃げ出しました

「ジョニー 両足揃えているなんて  
おまえの乗馬は小粋なもんだ

衣装もりつぱで小綺麗だ  
まるで花嫁さまのお通りだ」

土砂降りの夜も気にかけず

一行は陽気に逃げてゆきました  
コラフオードの土手に着いたとき

川は小山のようにうねつていました

コラフオードに着いたとき

ひとりの老人に会いました  
「ジ 老人 この川を馬で渡れようか

さあ すぐに教えてくれ」

「さあ どうか」と老人が言いました

「三十三年ずっとここで暮らしておるが  
こんなにも水が溢れたタイン川は初めてじや  
海のようなこの川は初めてじや」

弱虫のワットが言いました

三人の中で一番の臆病者

「止めだ 止めだ 渡るなんてとても無理  
死ぬ日が来たと腹を括ろう」

ジョックが言うには 「臆病者の盗つ人め

死ぬときは死ぬときだ  
付いて来い 向こう岸へ渡つてみせよう  
囚人はおれの背中に乗せてくれ」

水を搔き分け 一步ずつ

みなは川を渡りました  
ジョックが言うには 「ほらみろ 着いたぞ  
腰抜けワットめ どんなもんだい」

一行が向こう岸に着くか着かぬうち

二十人の追手が来るのが見えました  
ニューカースルの町から追つてきた  
腰抜けのイングランドの者どもでした

32

31

30

29

28

27

25

26

33 敵の大将が川を見て

「これではとても渡れない

おまえたち 囚人は連れて行つても

頼むからスペイン鉄は置いてゆけ」

34 ジヨンクが言うには「知つたことか

頂戴して 蹄鉄に使わせてもらおう

おれさまの葦毛の馬が

命がけでおまえさんから奪つたものだ」

35 一行はリズデイルへと

全速力で馬で駆けて行きました

囚人ジヨニーは暖炉の前に無事にご帰還

そこでようやく鎖から放たされました

36 三人が言うには「兄弟 ジヨニー

危うく死ぬところだつたのに

暖炉の前まで戻つてこれて

おれたちとこうして座れてよかつたな」

37 パンチボールになみなみ注いで

何杯も何杯も飲みました

兄弟の盃を交わすうち

夜は更けてゆきました